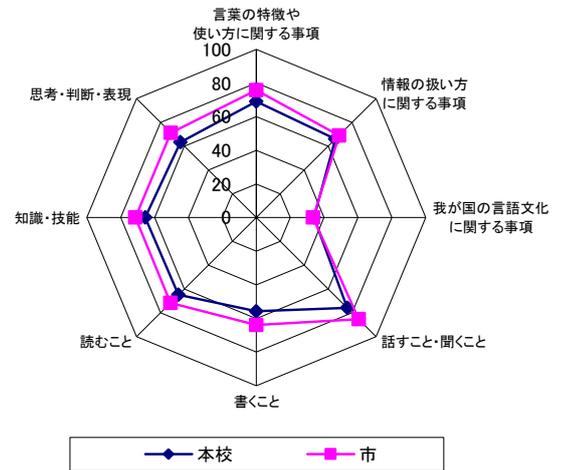


宇都宮市立錦小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.0	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	66.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	34.0	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	75.9	85.5	86.5
	書くこと	55.7	63.9	65.8
	読むこと	64.9	71.6	69.5
観点別	知識・技能	65.6	71.3	72.9
	思考・判断・表現	63.4	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は69.0%で、市より6.8ポイント低かった。 ○漢字の読みについては、正答率の平均が90%を超えており、概ね身に付いていると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 漢字ドリルやプリントなどを活用しながら、前学年までの漢字も含めて反復練習を行い、自主学習などで復習するよう指導する。 文脈に沿った漢字を適切に使うことができるよう、語句の意味調べを積極的に取り入れ、意味を理解した上で漢字を使えるようにする。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は66.0%で、市より3.1ポイント低かった。 ●「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」かを問う問題の正答率は66.0%で、市より3.1ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やグラフ、表などの情報を基に、自分の考えを述べながら文章を書くことは、国語だけではなく、他の教科でも取り入れる。情報を整理しながら必要な情報を活用し、自分の考えを広げられるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は34.0%で、市より0.5ポイント高かった。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」かを問う問題については、市と同程度だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の成り立ちや意味などを自主的に調べることができるよう、自主学習で取り組む内容として取り上げるなど、漢字を書いたり読んだりするだけでなく、興味をもって学習に取り組めるようにする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は75.9%で、市より9.6ポイント低かった。 ●インタビューの内容を聞き取る問題については、正答率がどの問題も市より約10ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室に掲示している「話し方や聞き方」を再度確認し、相手に対して話すとき、話を聞くときの基本的な態度を繰り返し指導する。 学級活動などの時間にも「話し方や聞き方」の掲示物を活用し、話題に対してお互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合えるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は55.7%で、市より8.2ポイント低かった。 ○「目的に応じて、文章を簡単に書いている。」かを問う問題については、正答率が51.1%で、市より3.5ポイント高かった。 ●文章を書く問題については、4問とも正答率が市より低く、そのうち3問は市より10ポイント以上低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えなどを文章で表す際に、構成メモを作成したり自分の書きたいことを整理したりするなど、筋道を立てて表現できるよう指導を行う。 文章を書くことに対して苦手意識をもっている児童がいるので、普段から自分の考えを表現する機会を多くしていき、読み手を意識した文が書けるようにする。また、文を書くだけでなく、括弧の使い方や段落頭の1文字空けなど、文を書くときのきまりについても繰り返し指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は64.9%で、市より6.7ポイント低かった。 ○「目的に応じて、文章の情報を整理している。」かを問う問題については、正答率が63.8%で、市より2.1ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習の時間や国語の授業において並行読書を取り入れるなど、本校の特色である読書活動に力を入れ、普段から本に親しむことができるようにする。